うつくしい。たくましい。みずみずしい。

群馬県嬬恋村　村勢要覧

発行：群馬県嬬恋村役場
発行年月：令和7年（2025）3月
〒377-1692 群馬県吾妻郡嬬恋村大字大前110番地
TEL：0279-96-0511（代表）　FAX：0279-96-0516
https://www.vill.tsumagoi.gunma.jp/

群馬県

嬬恋村

村勢要覧

群馬県西北部。
標高1400mの高原の大地に嬬恋村はあります。
ドラマチックにうつりゆく四季の自然風景。
どんな困難も村民一丸で乗り越えてきた歴史。
変わらない営みも新しい挑戦も、ともに大切にする心。
うつくしい。たくましい。みずみずしい。
いつまでも守っていきたい宝が、ここにはあります。

INDEX

02 はじめに
04 うつくしい。
06 たくましい。
08 みずみずしい。
10 農業・商工業・観光
12 健康福祉・教育・環境
14 安全・暮らし
16 協働・その他
18 村長ご挨拶・アクセス

PROFILE

群馬県最西端に位置し、西・南・北の三方は長野県に接しています。浅間山、四阿山などの山々に囲まれた高原地帯ではキャベツをはじめとした高原野菜の栽培が盛んで、万座温泉、鹿沢温泉などの温泉も湧出。ゴルフ場や別荘地、スキー場、キャンプ場などのレジャー施設も数多く存在する「農業と観光の村」です。

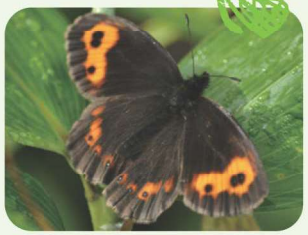
うつくしい。

キャベツ畑
7月～10月末、村のあちこちに広がるキャベツ畑の絶景。

愛妻の丘
浅間山とキャベツ畑を一望できる嬬恋村の愛の名所。

星空
澄み切った空気で人工の灯りが少なく満天の星が輝く。

清流
落差5mで神秘的な雰囲気が漂うたまだれの滝。



高山蝶
8月中旬から下旬に見られるベニヒカゲ。

桜
4月下旬～5月上旬に咲き誇る吾妻川沿いの桜並木。

シャクナゲ
標高1500mにある浅間高原シャクナゲ園は5月上旬が見頃。

果てしなく広がるキャベツのグリーン。
山々を染めあげるカラマツの黄金色。
なだらかな大地を抱く純白。
厳しい冬の終わりの淡いピンク。
365日、あざやかな色が
目に飛びこんできます。
遠くを見渡せば、
浅間山の優美な姿形に心が洗われます。
澄み切った空気、夜空を仰ぎ見れば
無数の星々がまたたいています。
嬬恋村は、愛おしい景色と生きていく村です。

野鳥
真っ白な毛で覆われ、市街地や森林など村全域で見られるエナガ。

レンゲツツジ
6月頃鮮やかな朱色で魅了する湯の丸高原のレンゲツツジ。

雪景色
広大なキャベツ畑は、冬には幻想的な銀世界へ。

紅葉
深まる秋、バラギ湖周辺の木々が鮮やかに色づく。

たくましい。

農家
嬬恋のキャベツ収穫は早朝3時から始まる。

浅間山
約10万年前から活動し、雄大な山容で古来親しまれる。

浅間山のふもとにある嬬恋村は
天明3年（1783）、大噴火に見舞われ
壊滅状態におちいります。
前代未聞の苦難のさなかでも、村民は
けして希望を見失わず、助け合い
奇跡的な復興を遂げていきました。
昭和初期、日本でとくに貧しかった村が
高原野菜の栽培へ活路をひらいたのも
観光で人が訪れる村を築き上げたのも
そんなたくましさのあらわれです。
嬬恋は、何度でも次をひらく村です。

カモシカ
厳寒期に岩上でじっと長い時を過ごす。特別天然記念物に指定。

おてんま
村民の手で清掃などを行う地域の奉仕活動。

嬬恋高原キャベツマラソン
激しいアップダウンで日本一ハードなマラソンコースといわれる。

消防団
防災意識の高い嬬恋は毎年10月12日が「嬬恋村防災の日」。

嬬恋晴レルヤ
2019年の台風被害を助け合いとつながりの力で乗りこえる。

黒ボク土
黒い色が特徴の浅間山の火山灰土。おいしい高原野菜を育てる礎。

みごだんご
彼岸の入り、天明3年の浅間山噴火で亡くなった先祖へお供えするだんご。

スケート
嬬恋村はオリンピックのメダリストも輩出するスケート王国。

鎌原観音堂
天明3年の浅間山噴火で生き残った観音堂。噴火の歴史と教訓を伝える。

みずみずしい。

あさまのいぶき
地元の高原野菜に加え、お土産なども販売する直売所。

直売所
村内に数ある直売所では嬬恋産の採れたて野菜や果物がずらりと並ぶ。

別荘地
冷涼な気候や大自然に惹かれ、移住者が年々増える。

温泉
バラエティ豊富な泉質が楽しめる日本でも珍しい温泉の村。

元気な子どもたち
冬の寒さにも負けず、笑顔がはじける。

嬬恋高校生
嬬恋村の歴史と魅力を理解し、村の活性化を考える探求学習に取り組む。

フレッシュでつややかな
高原野菜が味わえるだけでない。
いつも新しいニュースに
あふれている地域でありたい。
子どもから高齢者までが
芸術や文化ともっと親しくなれるような
拠点づくりやより短い時間で
遠くのエリアに野菜を届けられる交通網の進化など、
未来を大きく変えていくチャレンジもはじまっています。
新鮮さにこだわる。それが嬬恋村の流儀です。

サーラ嬬恋
2025年に完成予定の新たな芸術・文化活動の拠点施設。

高原野菜
キャベツのほか、トウモロコシやジャガイモなどの高原野菜の宝庫。

高齢者
村の高齢者たちも運動や健康づくりに熱心に励む。

Asama Valley
ボウリング場に併設されたワーケーション施設。

嬬恋米
高原の大地で育つ嬬恋米は、品評会で受賞するほどの美味。

嬬恋の村づくり

農業 agriculture

栽培されるキャベツは約35品種

生産量日本一を誇る「嬬恋高原キャベツ」。

嬬恋村は全国有数のキャベツ産地です。標高800～1,400メートルで栽培される「嬬恋高原キャベツ」は夏から秋にかけて出荷され、出荷量は1970年以来50年以上にわたり連続で全国1位を誇ります。有機物・保水性に富んだ火山灰土壌や夏の降水量の多さ、高原特有の昼夜の寒暖差がみずみずしくおいしいキャベツを育てます。村内では「玉菜（たまな）」という愛称で呼ばれます。

さっぱり食感の希少米「嬬恋米」

品評会で金賞を獲得した「嬬恋米」。

鎌原地区では米作りが盛んで、2020年には「嬬恋米」としてブランドを確立。「嬬恋米」は、毎年開催される「米・食味分析鑑定コンクール国際大会」で金賞を連続受賞するなど、全国的にその名を馳せています。また、ふるさと納税の返礼品としても選ばれ、村の新たな特産品として注目を集めています。

甘みが自慢のさまざまな高原野菜。

トウモロコシやジャガイモのほか、花豆、トマト、ズッキーニ、鎌原きゅうりなど、高原の冷涼な気候で育つ野菜は甘みが強いと評判です。

直売所は7～10月にかけて営業

採れたての地元産野菜が並ぶ直売所。

無人販売も含め、村内には数多くの直売所が存在し、バラエティ豊かで新鮮な野菜や果物がお買い求めできます。

商工業 commerce and industry

情報化対応を進め、経営基盤を強化。

商業では、大型スーパーを中心に、外国人観光客に向けた多言語対応や最新の決済システムの導入を進めています。工業は建設業と製造業が主となっています。商工会と連携し、情報化対応や人材育成など、事業者の経営基盤強化を図っていきます。

嬬恋村商工会が主催する「安市」

「安市」は桜が咲く4月29日に開催

美肌効果で女性人気も高い万座温泉

多様な泉質や絶景で心身を癒す温泉。

広大な面積に10以上もの温泉地が存在し、多様な泉質が魅力です。標高1,800メートルに位置する天空の温泉郷「万座温泉」は、硫黄濃度日本一の良泉質で乳白色が特徴。露天風呂では、山々の壮観な大パノラマや満天の星が一望でき、冬は雪見風呂も一興です。1000年以上の歴史を誇る「鹿沢温泉」は、古来湯治場として親しまれ、名だたる文豪にも愛された秘湯。泉質は肌にやさしい炭酸水素塩泉です。

観光 sightseeing

高山植物もトレッキングの見どころ

村のスキー場が舞台の映画も誕生

夏はトレッキング、冬はスキーで人気。

浅間山、四阿山、草津白根山という日本百名山3山をはじめ、トレッキング・登山の初心者から上級者までが楽しめる山々に囲まれています。冬は、万座温泉スキー場や鹿沢スノーエリア、関東最長のゴンドラを有するパルコール嬬恋リゾートなど、多くのスキーヤーやスノーボーダーがパウダースノーを満喫します。嬬恋は上信越高原国立公園や志賀高原ユネスコエコパーク、浅間山北麓ジオパークの一部に含まれ、ダイナミックな地形の数々も見ものです。

キャベツ畑の中心で妻に愛を叫ぶ

嬬恋高原キャベツマラソン

キャベツの収穫期に行う2大風物詩。

ヤマトタケルノミコトが妻に「あづまはや(我が妻よ、恋しい)」と嘆いたことからその名がついた愛妻家の聖地・嬬恋村。奥様やパートナーに愛や日頃の感謝を伝えるイベント「キャベツ畑の中心で妻に愛を叫ぶ(通称：キャベチュー)」を開催しています。また、「嬬恋高原キャベツマラソン」は、最大高低差170メートルでアップダウンが激しい"日本一ハードなマラソンコース"でありながら、広大で美しいキャベツ畑を走り抜ける爽快感が魅力で、全国ランニング大会100選の常連です。

ペット同伴旅行、ワーケーションでも注目。

近年のトレンドを踏まえ、「ペットツーリズム」に対応しています。ペット同伴が可能な宿や飲食店、雄大な景色の中でのドッグラン、湿度が低く冷涼な気候など、ワンちゃんにも飼い主にもうれしい環境を整えています。また、東京から短時間でアクセスできる地の利を活かし、「ワーケーション」「ブレジャー」などのリゾートワークの候補地としても注目を集めています。さらに、湯治など温泉を活かした健康増進を図る「ウェルネスツーリズム」にも取り組んでいます。

リゾートワーク施設「Asama Valley」

健康福祉 health and welfare

安心して子育てができる環境を整備

子育て世代の負担を総合的に軽減。

2016年度から給食費・保育料等を完全無料化し、出産時や小・中学校入学時、中学校卒業時にお祝い金を支給するなど子育て世代への経済的負担を軽減しています。また、妊娠・出産から子育てに関する相談や支援を一体的に行えるよう「子育て世代包括支援センター」を設置し、関係機関が協力して子育てを応援しています。さらに、「子育てガイドブック」を作成・配付するとともに「嬬恋村子育て応援サイト」と連携し、常に新しい情報を発信しています。

栄養バランスを考えたお弁当づくり教室

年代別の健診で生活習慣病を予防。

小中学生や20～39歳を対象とした健診や特定健診、後期高齢者健診等年代別の健診実施や保健指導・栄養指導に力を入れています。また、歯周病と生活習慣病には関連性があることから、村内歯科医院などの協力のもと、村民を対象とした歯科健診を実施しています。国民健康保険診療所は地域住民の健康を支える中心的な役割を担っており、広域医療圏と連携しながら質の高い医療の確保を目指します。

障がいを持つ方にもやさしい地域

近隣地域と協力し、障がい者福祉を支援。

村内での社会資源が少ないため吾妻圏域の町村と連携し、障がい者福祉サービスの充実を進めています。また、障がいの有無にかかわらず、誰でも気軽に立ち寄れる居場所づくりを推進しています。

介護の充実で健康寿命をより長く。

家族農業や観光業に従事し、高齢になっても役割を持って生活している方が多い嬬恋村では、介護認定率が全国・群馬県より低い状態で推移しています。介護予防教室やサロン活動の普及と運営支援、デマンドバス運行などを行い、健康寿命の延伸を目指しています。また、介護や医療が必要になっても可能な限り地域で安心して暮らせるような体制整備と資源の充実に努めています。

高齢者の健康づくりを応援する活動

教育 education

地域住民の協力のもと行う学校運営。

「豊かな心」「健やかな体」「確かな学力」を身に付けた人材育成を基本理念に、ICTの活用を図るなどして社会の変化に即した教育の充実に努めています。2024年度には「コミュニティ・スクール」を導入し、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現に向け、地域ぐるみで子どもたちを育てていきます。

新たな生涯学習の拠点「サーラ嬬恋」。

「生涯学習社会の構築」を基本施策とし、「多様な課題に対応した学習機会の充実」「地域の学びを支える人材づくり」「部活動とスポーツ団体・保護者等の指導連絡」を重点項目として、既存事業の見直しや時代に即した新たな事業を展開しています。現在、新しい文化芸能・生涯学習拠点となるサーラ嬬恋（SALA TSUMAGOI）を建設中です（2025年8月に完成予定）。

嬬恋村の歴史を教える授業も実施

浅間山とゆかりある文化財を保存・活用。

2024年、「嬬恋村文化財保存活用地域計画」が文化庁より認定され、地域一体で文化財の保存・活用を推進しています。1783年（天明3年）の浅間山噴火の歴史や教訓のほか、火山灰土「黒ボク土」を活用した復興のストーリーを伝え、村のにぎわいづくりに活かしています。

大自然とじかに触れ村の魅力を学ぶ

2016年、「浅間山北麓ジオパーク」が認定。

古来より嬬恋村の暮らしは浅間山とともにあります。2016年、「浅間山北麓ジオパーク」が日本ジオパーク委員会において認定されました。浅間山の噴火が造った大地とその上で暮らす動植物、そしてそれらと共生し活用して暮らす人々の歴史と文化を地域の未来を担う子どもたちや来村者に伝えています。

環境 environment

水道水を安定供給し、吾妻川の水質を守る。

浅間高原の別荘地を中心に配水する上水道と集落内を中心に配水する簡易水道17施設、小水道2施設を運営しています。主に湧水を原水とし、塩素消毒のみで安心・安全な水道水の安定供給に努めています。公共下水道では1995年から水質浄化センターが供用開始。農業集落排水４施設と浄化槽の普及促進により吾妻川の水質を守り、きれいで住みよい村づくりを推進しています。

2050年に向け、「つまごい5つのゼロ」を宣言。

地球温暖化防止に向け、環境省の気候危機宣言や2050ゼロカーボンが掲げる脱炭素社会を目指します。さらに群馬県の５つのゼロ宣言の取り組みと連携しながら、災害に強く持続可能な社会を築き、村民の幸福度を向上させるため、2050年に向け「つまごい５つのゼロ」を宣言します。

安全 safety

より万全な防災対策に力を入れる

防災情報システムを多角的に整備。

嬬恋村では令和元年（2019）東日本台風をはじめ、近年大雨などによる風水害に見舞われています。また、浅間山、草津白根山という活火山と共存していく必要があります。そのため、毎年10月12日を「嬬恋村防災の日」として定め、住民一人ひとりが平時から災害リスクを認識し、災害時にとるべき行動を理解していただくような取り組みを行っています。

緊急時に放送される防災行政無線は、デジタル式の無線受信機を各家庭に設置したことで、より速く確実な情報伝達が可能となりました。放送内容は、スマートフォンやパソコンで確認できるほか、電話での音声応答サービスにも対応しています。

また、緊急情報や役場からのお知らせは「防災行政メール」として配信しています。スマートフォンアプリ「LINE」では村の防災・災害・害獣・インフラ・観光情報のお知らせを受信できる「嬬恋村スマートシティ防災システム」の運用も開始しています。

安全運転を呼びかける啓発活動

地域一丸で取り組む交通安全活動。

長野原警察署、西吾妻交通安全協会等の関係機関・団体と協力して交通安全の啓発に取り組んでいます。毎年新入学児童に交通事故防止の願いを込めた「交通安全黄色いワッペン」の贈呈を行うほか、交通指導員による小学生の登校時見守りや各地区の交通安全協会と連携した交通安全活動を実施しています。

関係機関・団体と連携し、消防・防犯を強化。

嬬恋消防団では10の分団が吾妻広域消防本部西部消防署嬬恋分署と連携し、消火活動や火災予防啓発活動を行っています。また、嬬恋村婦人消防隊が各家庭における火災予防意識の啓発に努めています。防犯活動は、長野原警察署や防犯協会と協力して行い、PTA連絡協議会や青少年育成推進員連絡協議会等によるパトロールを実施しています。

120年以上村を守ってきた消防団

暮らし living

チョイソコつまごいの運賃は1回200円

乗合送迎サービス「チョイソコつまごい」。

2021年より事前予約型の乗合い送迎サービス「チョイソコつまごい」が運行しています。利用者の自宅前から村内全域（万座エリアを除く）、長野原町の一部（チョイソコつまごい停留所施設）まで送迎し、買い物困難者・高齢者の移動支援や外出のきっかけ創出につなげています。

移住・定住に向けた支援を拡充。

避暑地として人気が高く、別荘地への移住者が多い嬬恋村では、移住支援金や滞在補助金等の各種補助を充実させています。また、移住・定住を検討している方に向け、集落支援員による相談会や嬬恋村の実際の暮らしがわかる移住体験ツアーなどのイベントを実施しています。

地域おこし協力隊員による講習会

ふるさと納税「愛する嬬恋基金」。

2008年よりふるさと納税制度による「愛する嬬恋基金」を創設しました。この基金は、嬬恋村の豊かな自然環境を次世代に引き継ぎ、また都市と農村の新たな協力関係を築いて、多様な人々が参加するふるさとづくりのために大切に活用していきます。

村の活性化を支える「地域おこし協力隊」。

地域おこし協力隊とは、都市部から地方に移住した隊員が最大3年間の任期中にさまざまな地域活性化活動に取り組み、最終的に就職や起業をし、定住を目指す制度です。

嬬恋村では、2015年度から隊員の受け入れを開始しました。観光・農業振興、生活支援、移住促進、健康増進などの多様な分野で、隊員それぞれが持つ能力や経験が地域振興に活かされています。2023年度末時点で任期を終えた23名の隊員のうち、約半数の隊員が村内に定住し、引き続き活躍しています。

隊員の新たな視点や発想で村を元気に

協働 collaboration

自然や伝統を活かした姉妹提携

●千代田区
交流事業として、嬬恋村では農業体験やキャンプ、スキーなどの自然体験会を実施しています。千代田区では江戸天下祭りなどのイベントへの協力やスポーツ・文化活動への参加など広がりを見せています。震災等大規模災害時における相互応援協定も結んでいます。

●沖縄県座間味村
冬には座間味村の中学生が来村し、スキー教室の開催や伝統芸能を披露、夏には嬬恋村の中学生が座間味村のきれいな海でカヌーやホエールウォッチングなどを体験し、地域の特性を活かし交流を深めています。

神田小川町で嬬恋の雪を楽しむイベント

ポンペイ市との友好都市協定締結式

歴史や文化でつながる友好協定

●横浜市中区
横浜市中区と嬬恋村は、嬬恋村出身で横浜開港期に活躍した中居屋重兵衛氏の顕彰を契機に友好親善が促進されています。

●日本ロマンチック街道を中心とした広域連携
吾妻広域圏や浅間山麓周辺市町村との防災協定を結び、観光連携を推進しています。また、真田道や日本ロマンチック街道を中心とした広域連携および歴史・文化を通じた地域間交流を促進しています。

●イタリア共和国カンパーニア州ナポリ県ポンペイ市
2022年、イタリアポンペイ市と嬬恋村はそれぞれで起こった火山災害の類似性を踏まえ、互いの理解と連携を深める友好都市協定を締結しました。

地域活性化を支える大学連携

●明治大学
文化・教育・学術・地域活性化などの分野で相互協力しています。

●東海大学
スポーツ・教育を中心に、文化・学術・地域活性化などの分野で相互協力しています。

●女子栄養大学
健康・福祉・農林業・教育・文化などの分野で相互協力しています。

村のイベントをサポートする学生

嬬恋村のあゆみ

嬬恋村の歴史は、村内の遺跡で見つかった縄文土器から、今から7～８千年ほど前に遡ることができます。以来、関東との中央高地の縄文文化の交流を通じた先人の営みが続けられてきました。古代国家の成立する頃は、目立つ動きはみられませんでしたが、律令体制の末期とされる平安時代になると、各所に住居が造られ集落も形成されるようになりました。
そのころの嬬恋村は、「三原庄」や「吾妻庄」と言われ、信濃源氏の末裔とされる海野氏の支配下にあったとされています。鎌倉時代になると、海野氏の一族である下屋氏の治める地となり、やがて、その子孫である鎌原氏の支配する所となりました。戦国動乱の世にあっては真田氏の領地となり、江戸幕府が成立すると真田氏の沼田藩領となりました。その支配は天和元年（1681）の真田氏改易まで続き、その後は幕府直轄領となり明治維新まで代官所による支配が続きました。この間、江戸時代を中心とする時期には、上州と信州を結ぶ街道が整備され、沿道には宿場が設けられ、大笹には関所も置かれるなど、人馬の往来でにぎわいました。また天明3年（1783）には浅間山の噴火がありました。噴火で発生した「土石なだれ」は、浅間山北麓に大きな災害を発生させました。特に鎌原村は犠牲者477名など壊滅的な被害を受けました。明治22年の市町村制の施行に伴い、かつての田代・大笹・丁俣・大前・門貝・西窪・鎌原・芦生田・今井・袋倉・三原の11カ村が合併して、現在の嬬恋村となりました。

地勢と気候

嬬恋村は群馬県の西北部に位置し、東は長野原町・草津町に、西・南・北の三方は長野県に接しています。村の東部を除く外周には、湯ノ丸、四阿山、草津白根山などの標高2,000m級の山々が連なり、日本の大分水嶺をなしています。村の中央部を西から東に吾妻川が流れ、集落の大部分はこの流域に散在しています。地質は火山灰土の腐食土壌が多く、高原野菜の適地となっています。
気候は高原地帯だけに夏でも涼しく年間の平均気温は９℃前後で、１日の温度差が大きいのが特徴です。特に気温・湿度は避暑に最適であり、軽井沢にもまさる避暑地で、浅間高原一帯は一大別荘地としても脚光を浴びています。

村名の由来

第12代景行天皇の皇子「日本武尊（やまとたけるのみこと）」の東征中に、海の神の怒りを静めるために愛妻「弟橘姫（おとたちばなひめ）」が海に身を投じました。その東征の帰路、碓日坂（今の鳥居峠）にお立ちになり、亡き妻を追慕のあまり「吾嬬者耶（あづまはや）」（ああ、わが妻よ、恋しい）とお嘆きになって妻をいとおしまれたという故事にちなんで嬬恋村と名付けられました。

嬬恋村村章

外輪は嬬恋村の特産であるキャベツを図案化したもので、
中央の「嬬」の図案化で全村の円満なる発展を祝福したものです。

嬬恋村村民憲章

なげかけることばにほほえみを　さしだすその手にぬくもりを

つ まごいの　野菜・山菜　母の味
ま ず健康　わきだす泉の知恵をそえ
ご くろうさま　働く喜び野にこだま
い つまでも　浅間のような　たくましさ
村 びとが　ほこる歴史と　文化財

村の木：しらかば

村の魚：やまめ

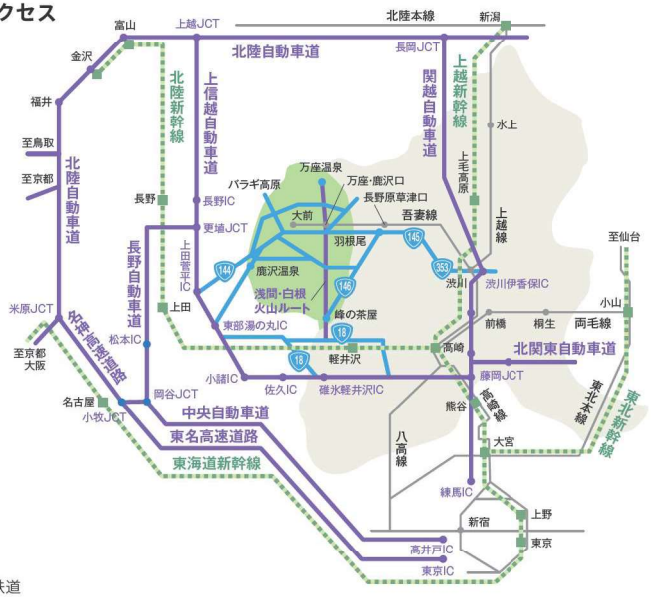
村の花：リンドウ

村長ご挨拶

嬬恋村は雄大な浅間山の麓に広がる美しい自然と四季折々の風景に恵まれた村です。冷涼な気候と火山灰土の大地を活かした高原野菜の栽培が盛んで、特に夏秋キャベツの生産量は日本一を誇ります。
万座温泉・鹿沢温泉・浅間高原・パラギ高原・白根高原の５つのエリアを中心とした観光地は、多様な泉質の温泉が豊富に湧出し、冬にはパウダースノーが堪能できたりと多くの観光客の方々に愛されております。嬬恋の名前の由来にちなみ、「愛妻家の聖地」として夫婦の絆を大切にする場所としても知られています。村を訪れる皆様には、嬬恋村ならではの「うつくしい。たくましい。みずみずしい。」魅力に触れていただきながら、大切な人との絆も再確認していただければと思っております。
今後は、上信自動車道の整備の促進やサーラ嬬恋（新嬬恋会館）の建設等によりさらなる住環境の整備を行い、一人でも多くの方々に「嬬恋村に住んで良かった」「嬬恋村に住んでみたい」と思っていただけるような村づくりをしていきたいと考えております。

嬬恋村長　熊川 栄

アクセス



●鉄道
○JR上野駅より上越線、吾妻線新特急草津で約2時間20分長野原草津口で下車。
　吾妻線下りに乗り換え約15分、万座・鹿沢口駅。
○JR東京駅より北陸新幹線で約1時間、軽井沢駅下車。軽井沢駅よりバスで約1時間、万座・鹿沢口駅。

●車
○関越自動車道、「渋川・伊香保I.C」からR353～R145～R144で嬬恋村。
○上信越自動車道、「碓井・軽井沢I.C」からR146～浅間白根火山ルートで嬬恋村。
○上信越自動車道、「東部湯の丸I.C」から浅間サンライン～県道東御嬬恋線で湯の丸高原を越えて嬬恋村。

村民の声から生まれたマーク

表紙のマークは、村民の方々に「嬬恋らしいもの」をお聞きし、その声をもとに生まれました。22個のイラスト一つひとつが村民が愛する嬬恋のシンボルであり、誇りです。村への理解を深めるのにどうぞお役立てください。

うつくしい。

キャベツ畑　星空　野鳥　紅葉　高山蝶　雪　朝日　高山植物

たくましい。

浅間山　鎌原観音堂　アイススケート　溶岩　農家　消防団　動物

みずみずしい。

愛（ヤマトタケルノミコトとオトタチバナヒメ）　子ども　湧き水　お年寄りの笑顔　温泉　高原野菜　朝露